

文集部 実践事例Ⅳ（授業公開）

単元名 調べてびっくり！だるま食べ物研究所

給食に出てくる変身する食材についてびっくりしたことを全校の友達に「オリジナルぱくぱくだより」でつたえよう

教材名 「食べ物のひみつ教えます」（光村図書3年下）

指導者 並木中央小学校 古賀 由美子

1 指導事項と言語活動

(1) 指導事項

- 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方や出典の仕方、辞書や事典の使い方を理解し、使うこと。
（[知識及び技能] (2) イ 情報の整理）
- 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり、分類したりして、伝えたいことを明確にすること。
（[思考力・判断力・表現力等]「書くこと」 ア）
- 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。
（[思考力・判断力・表現力等]「書くこと」 ウ）

(2) 言語活動

○調べたことをまとめてぱくぱくだよりに書く活動（言語活動例「書くこと ウ」）

「ぱくぱくだより」は、読み手のことを考えて、情報を選んだり、事実についてその根拠となる理由や分かりやすく示す事例を工夫したりする必要がある。また、変身のひみつを紹介するためには、自分が何にびっくりしたのかをしっかりと言葉で表現できなければならない。今回、情報を得るために、一冊の中の数ページから、また複数の資料を扱うようにする。その情報をメモする際には、奥付の意味、メモの取り方など調べた情報や聞いたことをそのまま書き表すだけではなく、そこに自分の思いを乗せて書くことが大切である。自分の考えを伝えるために言葉による見方・考え方を働かせ、必要な情報を選んだり、書き表し方を工夫したりする力を身に付けさせたい。

今回「オリジナルぱくぱくだより」に載せる食材に制限をかける。変身する食材について調べた中で自分がいちばん驚いたことを伝えたいこと（書きたいこと）の中心として子どもたちと共有する。伝えたいことについて根拠をもってより相手に伝えるために調べたものの中から、3つ程度事例を挙げて記述する。また、相手を「全校のみんな」としているが、これだと集めた情報を取捨選択する際の相手意識が薄くなるので、自分が伝えたい相手（学年、クラス）をそれぞれが決めるようにする。

2 単元目標

- 自分が選んだ食材をおいしく食べる工夫（変身のひみつ）を伝えるために、インタビューしたり本で調べたりして、分かったことを比較したり分類したりする仕方を理解する。
【知識及び技能】
- 「オリジナルぱくぱくだより」を書くために、自分が選んだ食材の変身のひみつについて集めた情報を比較したり分類したりして伝えたい内容を決め、食材についての自分の考えとその理由との関係を明確にして、書き表し方を工夫する。
【思考力・判断力・表現力】
- 自分が選んだ食材の変身のひみつを伝えたいという思いをもち、よりよい情報は何か、分かりやすく伝えるためにはどうしたらよいかを考え、文を書こうとする。
【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、辞書や事典の使い方を理解し、使っている。	②「書くこと」において、食べ物の変身のひみつについて調べたことを共通点や相違点に着目して比較したり、分類したりして、伝えたいことを明確にしている。 ③「書くこと」において、食べ物の変身のひみつを伝えるために、調べたことについての自分の考えとその理由を明確にして、書き表し方を工夫している。	④「オリジナルぱくぱくだより」で食べ物の変身のひみつを伝えるために、集めた情報の関係性を考えたり、自分の考えとその理由を明確にして書き方を工夫したりしながら、よりよく書こうとしている。

4 指導と評価の実際（10時間）

第0時 総合的な学習の時間を通して、自分が興味をもった食材についてインタビューや図書資料から情報を集める。

④自分が選んだ食材の変身のひみつを伝えたいという思いをもち、必要な情報を集めている。

第1時 総合的な学習の時間での取組と関連付けて、学習課題を設定する。

④「オリジナルぱくぱくだより」で給食に出てくる変身する食材について伝えたいという思いをもち、学習の見通しをもっている。

第2時 「オリジナルぱくぱくだより」の特徴を知り、学習計画を立てる。

①モデルの分析をもとに、「オリジナルぱくぱくだより」の内容に気付き、それを自分の紹介に生かそうとしている。

第3・4時 給食に出てくる食材の変身のひみつについて調べ集めた情報をメモにまとめる。

①人にきいたり、資料を活用して調べたりして給食の食べ物の変身のひみつについて必要な語句を中心にメモに書き留めている。

第5時 誰に伝えるのかを決め、情報を整理する。相手に合わせた情報を絞り込み、載せる情報を選ぶ。

②集めた情報を整理し、相手に必要なものを選ぶために、情報を分類したり比較したりしている。

第6・7・8時 「オリジナルぱくぱくだより」に載せる情報が相手に合っているか再度検討したり、自分が選んだ食材の変身のひみつについて書いたりする。また、読んで伝わる表現となっているか、書いた文章を読み直して、表現の仕方を工夫する。

②集めた情報を比較・分類して、相手に合わせて書く情報を選び、ぱくぱくだよりに載せる自分の考えとその理由を自分なりに明確にしようとしている。

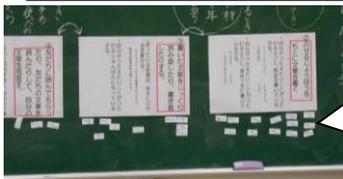
③自分が知らせたい食べ物の変身のひみつについて、自分の考えとその理由や事例との関係を明確にしながらか、言葉を選んだり、文章を書いたりして、書き表し方を工夫している。

④学習に見通しをもち、集めた情報の関係性を考えたり、自分の考えとその理由を明確にして書き方を工夫したりしながら、自分で学習を調整して、よりよく書こうとしている。

集めた情報をもとに実際に文章を書いて見直す記述の時間を3時間計画し、その中で子どもたちが自分の学習の進捗を調整しながら学習を進めることができるようにした。

- ・持っている情報をもとに、文章を書く。
- ・書いた文章を自分でじっくり読み直したり、書き直したりする。
- ・自分に必要な相手を選び交流して、自分の書いた文章について確かにする。

3時間（本時では45分）でこの3つ学習を行ったり来たりする。



一人一人が名前マグネットの位置で自分の学習状態を把握できるようにする。



誰が、何について調べているか、伝える相手は誰か、が分かるよう掲示し、それをもとに自分で相手を選び交流できる場を設定する。

第9時 文章を清書し、「オリジナルぱくぱくだより」を完成させる。

③自分がいちばん伝えたいこと（書くことの中核）とそのつながりに気を付けて読み直したり、読み手に分かりやすい表現になっているかの視点で読んだりして文章を整え、清書を書いている。

第10時 完成したぱくぱくだよりに読み合い、伝えたいことの内容や表現について伝え合う

④単元を通して、身に付けた内容を振り返り、これからの生活へ生かそうとしたり、食べ物の変身の秘密についての関心を広げたりしている。

5 成果と課題

本単元では、伝える食材、伝える相手、書く時間をどう扱うかなど自己決定ができる場面を多く設定したことで毎時間学習計画を意識し、必要感をもって学習に取り組む姿が見られた。教師の支援が必要な児童も交流することで気付くことも多く、自分の力で書き上げた達成感を味わっていた。今回は、小見出しが交流の視点であったが、それだけでは記述と推敲を行ったり来たりすることに難しさも感じたので、見合う視点をどれだけ子どもたちに示すことができるかが今後の課題である。